
悲劇的コント「ラーメン2011」

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲劇的コント「ラーメン2011」

【Nコード】

N6153Q

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

半分冗談だけど半分マジというコント。テーマは所得格差。

非正規労働は地獄である。毎日毎日低賃金重労働。死にそうである。連日の戦争状態に悲鳴を上げている。

だから、正社員に期待してた。正社員はオレたち非正規に命令ばっかして全然仕事をしてない。おまけに高い報酬を得ている。ならば、いつの日かラーメンをおごってくれるのではないか。

正社員の豆岡さんが「疑村くん。ラーメン食べに行こうか。おごるよ。毎日低賃金でがんばってるからね」と言うのを待ってる。

「ん。どうした。疑村くん。オレの顔に何かついてる？」

「いや別に……」

いつまで経ってもラーメンをおごってくれない。オレはなぜだろうと理由が知りたくなった。何か深い理由があるのかもしれない。

オレは、豆岡さんに話があるので時間をくださいと言うが、忙しいからだめだと言う。どう見てもパソコンでネットゲームしてるだけにしか見えないが。

「ラーメンおごりますよ。お話ししましょう」

「うん。わかった。話聞くよ」

二人でラーメン屋に行った。

オレは給料日前なので、普通のラーメンだけにした。

豆岡さんは、坦々麺と炒飯と餃子と杏仁豆腐とから揚げとオレんジジューズを注文した。

「多いですねえ。ちよつと手伝いましょうか」

「いや全部食えるよ。ただならたくさん食べなきゃ」

「こいつどういう神経してやがるんだ。頭がおかしい。くそでぶめ。」

「しかし、ちよつとかと思ったよ。ちゆるちゆる」

「え」

「ちよつと、疑村くんがラーメンおごってくれたってことさ。ちゆるちゆる。オレたち正社員でほんと、仕事がハードだろ？ 非正規が

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6153q/>

悲劇的コント「ラーメン2011」

2011年10月9日19時14分発行